第八章　考　察

第一節　静岡県の先土器文化

静岡県における先土器文化の研究史については、すでに第一章序説において、その概略を記述した。したがってここでは静岡県における先土器時代遺跡の分布・立地・遺構・石器の内容・編年等について触れてみたいと思う。

まず静岡県内の先土器時代遺跡について、現在知見に上るものを次に一覧してみよう。

第一表　静岡県における先土器時代遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物	石材	文献
1	天神原	賀茂郡南伊豆町伊浜	丘陵上	尖頭器	黒・玄	21・22
2	下条	〃　〃　湊	丘陵	尖頭器	黒	21・22
3	荒巻	〃　東伊豆町稲取	丘陵	尖頭器	玄	23
4	柏久保	田方郡修善寺町柏久保	台地	掻器・剝片	玄	(小野実見)
5	向原	〃　大仁町三福	台地	掻器・尖頭器・小石刃	黒・頁	7
6	鍋沢	〃　〃　三福	台地	ナイフ形石器	黒	7

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物	石材	文献
7	安ノ沢	田方郡大仁町田中山	丘陵	切出形ナイフ	黒	7
8	松岡	〃　田中山	丘陵	ナイフ形石器・削器・掻器	黒・頁・チャート	7
9	馬ノ脊	〃　田中山	丘陵	有舌尖頭器	頁	7
10	土沢	〃　田中山	丘陵	有舌尖頭器	チャート	7
11	上西ノ窪	〃　安野	丘陵	石核	黒	7
12	下西ノ窪	〃　安野	丘陵	ナイフ形石器	黒	7
13	ハッチョウ	〃　浮橋	丘陵	礫器	安?	7
14	上ノ畑	〃　浮橋	丘陵	切出形ナイフ	黒	7
15	茅野A	〃　茅野	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・掻器	黒	7
16	茅野B	〃　茅野	丘陵	〃	黒・チャート	7
17	西畑	〃　浮橋	丘陵	掻器	黒・頁	7
18	アイノ山	〃　浮橋	丘陵	掻器	黒・頁	7
19	高天ヶ原	〃　韮山町中	台地	ナイフ形石器	黒	6
20	北甚助	〃　多田	丘陵	石核・刃器・ナイフ形石器・細石刃・剥片	黒・頁・安・チャート	6・19
21	奈古谷	〃　奈古谷	台地	尖頭器・掻器	頁・安	19
22	長者ヶ原	〃　中	台地	ナイフ形石器・尖頭器・細石刃・掻器・剥片	黒・頁・安	19
23	御堂山	〃　函南町平井	丘陵	尖頭器		1

24	下原	〃	〃	大竹	丘陵	石核・ナイフ形石器	黒・安	6
25	下人原	〃	〃	大竹	丘陵	ナイフ形石器・彫器・細石刃・細石核	黒・チャート	6
26	上原	〃	〃	桑原	丘陵	ナイフ形石器・石核・尖頭器・掻器	黒・頁・安	6
27	三本松	〃	〃	桑原	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
28	大田原	〃	〃	田代	丘陵	尖頭器	黒・安	（小野実見）
29	大越	熱海市泉			丘陵	尖災器・有舌尖頭器	硅・黒	21・1・11
30	桃山	〃	伊豆山		丘陵	尖頭器		11
31	井戸尻	三島市元山中			丘陵	刃器・ナイフ形石器	黒	
32	山中A	〃	山中新田		丘陵	ナイフ形石器	黒	6
33	願合寺	〃	〃		丘陵	尖頭器・細石核	黒・安	6
34	山中C	〃	〃		丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	安・黒・頁	6
35	山中D	〃	〃		丘陵	ナイフ形石器	黒	6
36	海老ノ木平	〃	〃		丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・細石核	黒・安	6・21
37	鬼坂	〃	笹原新田		丘陵	尖頭器	黒・安	6
38	鎌ヶ沢	〃	小沢		丘陵	尖頭器	安	6
39	笹原	〃	笹原新田		丘陵	ナイフ形石器	黒	6
40	カシラガシ	〃	市ノ山新田		丘陵	ナイフ形石器	黒	6
41	北原	〃	塚原新田		丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・削器・石核	黒・頁・安・チャート	6・21・26

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物	石材	文献
42	初音ケ原A	三島市塚原新田	丘陵	ナイフ形石器・掻器	黒・安・頁	6・21
43	初音ケ原B	〃	丘陵	ナイフ形石器・石核・削器	黒・安	6
44	初音	〃	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
45	御座松	三島市玉沢	丘陵	ナイフ形石器・掻器・彫器・石核	黒・頁	6
46	トビノス	〃	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	黒・安	6
47	馬場	〃	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	黒・安	6
48	庚申松	〃	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・掻器・石核・細石核	黒・安	6
49	台崎A	〃	丘陵	ナイフ形石器	頁・黒	1・6・21・31
50	台崎C	〃	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	頁	6・21
51	赤松	〃	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	黒・安	6
52	奥山	〃	丘陵	ナイフ形石器	安	1・3・6・21・31
53	南山	〃	丘陵	刃器	黒	1
54	日向山	〃	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
55	観音洞	〃	丘陵	ナイフ形石器	安	6
56	清水平	〃 笹原新田	丘陵	石核	黒	
57	観音原	〃 〃	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
58	里平	〃 沢地	丘陵	尖頭器	安	20

59	反畑	〃	徳倉	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
60	扇平A	〃	元山中	丘陵	剥片・ナイフ形石器（？）	黒	6・18
61	扇平B	〃	〃	丘陵	ナイフ形石器	頁	6
62	扇平C	〃	〃	丘陵	揉錐器	安	6
63	雷平下	〃	市ケ沢	丘陵	刃器	黒	20
64	三島辻	〃	〃	丘陵	ナイフ形石器	黒	6
65	コスゲA	〃	佐野	丘陵	ナイフ形石器	安	6
66	コスゲB	〃	佐野	丘陵	ナイフ形石器・掻器・剥片	安	6
67	ナーゴ山	〃	萩ケ窪	台地	ナイフ形石器・石核・掻器	黒	1・25
68	八反田	駿東郡長泉町下長窪		台地	尖頭器	黒	10
69	尾尻	〃	下長窪	台地	細石刃・細石核	黒	10
70	上野E	〃	下長窪	台地	有舌尖頭器	頁	10
71	上山地	〃	南一色	台地	有舌尖頭器	頁	10
72	中峰	〃	上長窪	台地	有舌尖頭器	頁・黒	27
73	上川	裾野市金沢		丘陵	敲打器（握斧）・刃器	頁	28
74	上松沢平	沼津市岡宮		丘陵	尖頭器	玄	小野蔵
75	清水柳	〃	岡一色	丘陵	有舌尖頭器	頁	29
76	長塚	〃	東沢田	丘陵	尖頭器	玄	8

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物	石材	文献
77	葛原沢	沼津市足高	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・掻器	黒	8・17
78	八兵衛屋敷	〃　西沢田	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	黒	17
79	休場	〃　足高	丘陵	細石核・細石刃・尖頭器・ナイフ形石器	黒・安・頁	2・4・21・17（昭和39年発掘）
80	目黒身	〃　西椎路	台地	ナイフ形石器	黒	30
81	藤原	〃　東原	丘陵	尖頭器	黒・頁	沼津考研蔵
82	大芝原	〃　鳥谷	丘陵	ナイフ形石器		17
83	イラウネ	〃　柳沢	丘陵	ナイフ形石器・石核・掻器	黒・頁	2・13（昭和38年発掘）
84	大廓	〃　柳沢	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・掻器	黒・頁・チャート	2・17・21
85	赤野	〃　青野	丘陵	尖頭器・剥片	黒・チャート・頁	小野蔵
86	城山	〃　柳沢	丘陵	ナイフ形石器・掻器・小石刃		2
87	八丈岩	〃　柳沢	丘陵	ナイフ形石器・小石刃		2
88	ヒロンバ	〃　根古屋	丘陵	尖頭器	黒	9
89	銭神	〃　井出	丘陵	尖頭器	黒	9・21
90	舟山	〃　平沼	丘陵	尖頭器	黒	9・26
91	大沢	〃　石川	丘陵	尖頭器	黒	静岡工業高校蔵
92	猫山	〃　平沼	丘陵	ナイフ形石器	チャート	小野蔵
93	春山	〃　荒久	丘陵	尖頭器	黒	9・26

94	メツコ	富士市船津	丘陵	ナイフ形石器	黒	9・13
95	陣ヶ択	〃	丘陵	ナイフ形石器・小石刃		2・13
96	的場	〃 境	丘陵	ナイフ形石器	黒	2・13
97	峰山	〃 鵜無ヶ淵	丘陵	掻器・ナイフ形石器		13
98	宇東川	〃 原田	台地	小石刃		1・13
99	中島	〃 〃	台地	掻器・小石刃		1・13
100	横道	〃 天間	台地	小石刃		1・13
101	小塚	富士郡芝川町西山	丘陵	ナイフ形石器・尖頭器・石核・刃器・掻器	黒・頁	1・21（昭和46年発掘）
102	楠金	〃 〃 長貫	河岸段丘	剥片		1
103	坂上	富士宮市沼久保	台地	剥片		1
104	千居	〃 上条	台地	ナイフ形石器	玉髄	16
105	浅間林	庵原郡富士川町北松野	河岸段丘	尖頭器・剥片	黒・チャート	12
106	日本平	清水市日本平	山上	細石核・尖頭器		1・3
107	大段	静岡市片山	丘陵	刃器		1
108	天ヶ谷	藤枝市瀬戸新尾	丘陵	ナイフ形石器		磯部家所蔵
109	山田原Ⅰ	袋井市山田原	台地	小石刃・剥片	頁	1
110	山田原Ⅱ	〃 〃	台地	石核	頁	1
111	山田原Ⅲ	〃 〃	台地	尖頭器・小石刃	頁	1

番号	遺跡名	所在地	地形	遺物	石材	文献
112	藤上原Ⅰ	磐田市藤上原池端前	台地	ナイフ形石器・尖頭器・石核・刃器・彫器・掻器	頁	1・3・5（35年発掘）
113	藤上原Ⅱ	〃　池端東	台地	細石核・剥片		1
114	藤上原Ⅲ	〃　池端東	台地	小石刃・剥片		1
115	藤上原Ⅳ	〃　池端東	台地	刃器・剥片・尖頭器		1
116	藤上原Ⅴ	〃　中原	台地	尖頭器		1
117	上原Ⅰ	〃　上原古坂上	台地	ナイフ形石器・剥片		1
118	上原Ⅱ	〃	台地	刃器・剥片		1
119	上原Ⅲ	〃	台地	刃器核（石刃核）		1
120	上原Ⅳ	〃	台地	刃器・剥片		1
121	寺谷Ⅰ	〃　寺谷原・出作	台地	小石刃・剥片		1
122	寺谷Ⅱ	〃	台地	小石刃・剥片		1
123	勾坂上Ⅰ	〃　勾坂上	台地	小石刃・剥片		1
124	勾坂上Ⅱ	〃	台地	小石刃・剥片		1
125	勾坂上Ⅲ	〃	台地	小石刃・石核		1
126	勾坂上Ⅳ	〃	台地	小石刃		1
127	勾坂上Ⅴ	〃	台地	小石刃		1
128	勾坂中Ⅰ	〃　勾坂中	台地	小石刃		1

129	勾坂中Ⅱ	〃	〃	台地	小石刃		1
130	竹之内	〃	竹之内（向陽中学校）	台地	剝片・刃器		1
131	広野	磐田郡豊田村広野		台地	細石核		1
132	善光平	〃	豊岡村社山	台地	石核		1
133	吉野町	浜松市吉野町		丘陵	ナイフ形石器・尖頭器	硬砂・黒	15
134	梔池	〃	宮口	台地	細石核		15
135	東平	〃	神ヶ谷町	台地	尖頭器・有舌尖頭器		15
136	次郎大夫前	〃	吉野町	丘陵	有舌尖頭器		15

（参考文献）

1. 静岡県教育委員会「静岡県遺跡地名表」昭和三十六年。
2. 静岡県教育委員会「静岡県遺跡地名表補遺」（静岡県の古代文化）昭和三十八年。
3. 市原寿文「静岡県の無土器文化」（静岡県の古代文化）昭和三十八年。
4. 杉原荘介・小野真一「静岡県休場遺跡の細石器文化」考古学集刊第三巻第二号、昭和四十年。
5. 麻生優・小田静夫「静岡県磐田市大藤池端前遺跡」人類学雑誌第七十四巻第二号、昭和四十一年
6. 秋本真澄「伊豆の後期旧石器文化図録」昭和四十三年。
7. 漆畑稔「大仁町の旧石器・縄文文化」大仁町教育委員会、昭和四十三年。
8. 沼津市「沼津市誌」下巻。（小野真一「文化財篇」）昭和三十三年。
9. 原町「静岡県原町誌」（小野真一「先史社会の形成」）昭和三十八年。
10. 長泉町「長泉郷土誌」（小野真一・笹津海祥「原始社会」）昭和四十年。
11. 熱海市「熱海市史」上巻。（長田実・小野真一「原始時代」）昭和四十二年。
12. 富士川町「富士川町史」。（稲垣甲子男「原始時代」）昭和三十七年。

13. 富士市「富士市史」上巻。（中野国雄「富士市のあけぼの」）昭和四十四年。
14. 富士宮市「富士宮市史」。（植松章八「無土器文化の時代」）昭和四十六年。
15. 浜松市「浜松市史」。（向坂鋼二「原始編」昭和四十三年。
16. 小野真一・尾形禮正・秋本真澄「大石原千居遺跡」2。昭和四十七年。
17. 沼津商業高等学校郷土研究部「沼津地方の旧石器文化」東静郷土研究第五号、昭和四十年。
18. 沼津商業高校郷土研究部「箱根山地における五輪C遺跡」東静郷土研究第六号。昭和四十一年。五輪Cは扇平Aと同じ。
19. 韮山高等学校郷土研究部「韮山における先土器遺跡の調査」東静郷土研究第七号。昭和四十二年。
20. 韮山高校郷土研究部「れぽうと」第一号。昭和三十九年。
21. 小野真一「郷土の先史文化」沼津女子高校考古館第三回考古学講座講演要旨。昭和三十九年。
22. 沼津女子高等学校郷土研究部「うぶすな」第九号（南伊豆町特集号）。昭和三十八年。
23. 沼津女子高校郷土研究部「うぶすな」第七号（東伊豆町特集号）昭和三十五年。
24. 沼津商業高校郷土研究部「郷のあけぼの」昭和二十四年。
25. 小野真一「静岡県東部古代文化総覧）昭和三十二年。
26. 静岡県高等学校社会科研究協議会「日本史学習のための静岡県郷土資料集」昭和四十年。
27. 長泉町教育委員会「上長窪遺跡群」（佐藤民雄・稲垣甲子男・小野真一・他）昭和四十六年。
28. 笹津海祥・小野真一・佐藤民雄「駿東郡裾野町上川遺跡発掘調査概報」東名高速道路関係（静岡県内工事）埋蔵文化財調査報告書。昭和四十五年。
29. 笹津海祥、白石竹雄「沼津市清水柳遺跡発掘調査概報」前同。昭和四十五年。
30. 小野真一「目黒身」沼津市教育委員会・沼津考古学研究所。昭和四十五年。
31. 三島市「三島市誌」（長田実「原始社会」）昭和三十六年。

以上の表で見ると、最も多く発見されている地域は富士川以東の、いわゆる東部で、これに大井川以西の西部（遠州地方）が次ぎ、中部は最も少ない。東部でも特に箱根山地が圧倒的で、これも三島の旧東海道の沿線に多く分布することが知られる。これは三島～箱根を結ぶ重要な幹線道路があるため、交通の便がよく、多数の研究者が盛んに踏査をしたためでもあ

る。しかし近年はその周辺一帯に足跡が及び、特に南部の函南町・韮山町・大仁町、さらには修善寺町にまで分布が知られるようになった。

一般に箱根山地は火山灰層が厚く堆積し、平担な面では先土器時代の遺物を含む黄褐色ローム層の上に、暗褐色（栗色）土層や黒色土層が五〇～八〇センチ位堆積している。また斜面の地域では表層の耕土が長い間に風雨のためかなり流出し、ところによってはロームまでの深さが三〇センチ位になっているところもある。それでも陸稲・麦・甘藷及び普通の野菜の栽培程度では、とてもローム層まで鍬が及ばない。ところがこの地域は古くから「三島大根」と呼ばれる丈の長い、しかも良質の大根を産し、さらに同様の「牛蒡」・「人蔘」の本場でもあったため、深掘りが盛んに行われているのである。しかも近年各所で地力恢後のため「マサ打ち」（天地返し）が行われ、下層のロームと表層の混合化が行われている。したがって黄褐色ロームと共に、旧石器が多く地表に顔を出しているわけである。

愛鷹山地でも「牛蒡」などの長物の栽培が一部で行われているが、いづれも農家の自給用で、小規模であり、品質も落ちる。したがって鍬先がロームに及ぶことは少なく、表面採集は困難であり、したがって古い農道（山道）の両脇の崖面や、工事現場から遇然に発見される程度である。それでも今後の調査如何では箱根山地に劣らない濃密な分布が確認されるであろう。

中部の日本平など有度山地や、西部の磐田原台地は表土も比較的薄く、耕作により遺物の出土も容易である。ただ中・西部地方は茶園や密柑園、森林などが多く、今後の開発や線密な調査により、一層増加するものと思われる。

次に立地並びに層位であるが、立地としては箱根・愛鷹・富士山麓などの台地、日本平・磐田原などの隆起台地など、いづれも洪積台地がえらばれ、他に海岸段丘や河岸段丘などに位置する場合もある。地層は愛鷹山地に例をとると、一般に第一層の表土（又は耕土）の下に、スコリア含有黒色土層（第二層）、黒色土層（第三層）、栗色土層（第四層）、黄褐色ロ

ーム層（第五層）、スコリア質ラピリー含有赤褐色ローム層（第六層）、埋没黒土層（第七層）などの堆積がみられ、旧石器を出すのは第五層の黄褐色ローム層である。この層は愛鷹ローム層の中でも最上位のもので、関東の立川ローム層に対比され、発見される旧石器はいづれも後期旧石器で、刃器や尖頭器、細石器等を主体としている。沼津市の休場遺跡はこの愛鷹山地で発掘された著名な遺跡であるが、ここでは海抜二八〇メートルという高所にあり、黄褐色ローム層は表土から約二メートル下方に存在した。そしてこのローム層に無数の石器類や石屑が包含されていたのである。ここでは大小二つの炉址が発見され、その中から発見された木炭を資料にC14測定が行われた結果、一四三〇〇プラスマイナス七〇〇年前という年代数値が得られ、休場石器文化期として編年づけられている。その年代からみて細石器文化としては最古期のものと考えられる。このほか、明治大学考古学研究室で発掘した沼津市柳沢のイラウネ遺跡や、筆者らの調査した同じ柳沢の大廓遺跡があるが、いづれも休場より古いナイフ形石器を主体とし、やはり黄褐色ローム層より出土している。この黄褐色ローム層は古期富士降下火砕層とも呼ばれるもので、愛鷹山のみでなく、東は箱根山地、西は富士山地から芝川付近一帯を被覆しており、箱根山地では三島市北原、台崎、富士山及びその西辺では千居や小塚など、いづれもこの層から旧石器を出土することが確認されている。そこで筆者らは早くよりこの層を休場層と呼び、加藤芳郎氏らを中心とする愛鷹ローム研究会（地学グループ）もこの名称を用いている。

磐田原台地では藤上原Ⅰ遺跡（池端前）に例をとると、第一層が黒色の表土層で、厚さが約二〇～三〇センチあり、その下に暗黄褐色土層が三〇～四〇センチ前後の厚さでみられ、その下は褐色土層（第三層）、淡黄褐色土層（第四層）、礫混り黄褐色粘土層（第五層）、砂利層（第六層）となる。旧石器の包含層は第二層で、第三層以下は皆無であった。他に発掘例を聞かないため、磐田原台地全体の様相を知りかねるが、大体同様な状態と推察される。

なお藤上原Ⅰ遺跡では、第二層よりナイフ形石器・彫刻器・掻器・箆状石器・両面加工の石器（尖頭器？）・石刃・石核

剝片・磨石などの石器群が発見されている。

さて先土器時代の遺構としては、県内で休場遺跡の大小二つの炉址が知られているのみである。この炉址については杉原荘介氏による住居址説があるが（注1）、筆者は①大小二つの炉址は同時に多数の人間の使用が可能である。②一〇メートル四方位の間に四〇〇〇点以上の鋭い剝片類（石器、石屑）が散乱している点、住居には不適当である。などの理由から、屋外における共同体の石器製造址を考えている（注2）。そしてその周囲に掘っ立ての簡素な住居が幾つかあったものと推定するのである。いづれにしても今後一層細かな調査が必要であろう。

静岡県内発足の旧石器の内容については、敲打器・刃器・掻器・彫刻器・尖頭器・細石器など各種のものが出土しているが、杉原氏のいう敲打器の段階の石器は、確実なものがまだ発見されていない。現在知られている礫器類は、箱根・愛鷹両山地及び磐田原台地にみられるが、ほとんど刃器文化の段階のものと考えられるからである。裾野市金沢字上川発見の石器などは握斧（ハンドアックス）に似ているが、同じ遺跡で刃器がやはり出土している。刃器または剝片石器の類は静岡県下各地できわめて多く発見され、特にナイフ形石器は豊富である。一般に駿豆地方のものは黒耀石を材料としたものが多く、遠州地方では硅質頁岩が石材として多く用いられている。市原寿文氏がすでに指摘されておられる如く（注3）、いづれの場合にも脊面はほとんど手つかずで第一剝離面を残し、大体において片面加工のようである。また石器脊面からみて、縦長の剝片を素材としている点も共通している。全体的にみて形態は関東地方における茂呂型ナイフの系類に属するようで、他に杉久保型ナイフに似たものもあるが、数は少い。細石器も県内各地から発見され、普遍的に分布するようであるが、沼津市の休場を除いては発掘例がない。休場のものはナイフ形石器のやや新しい段階のものや尖頭器などを少量含み、年代もC14測定で約一四〇〇〇年前と出て、細石器文化では日本最古期のものと考えられる。これに対して三島市山中新田の海老ノ木平、駿東郡長泉町下長窪の尾尻、袋井市の山田原等より発見された細石核をみると、長野県の矢出川出土のものに類似し、

休場よりはやや新しい時期のもと推定される。有舌尖頭器は前に掲げる表にもれたものも多く、県内に多く発見されているが、これも芹沢長介氏により四分類され（注4）、後半の二形式は土器を伴なう場合もあって、縄文時代のものと考えられている。当地方ではまだこの種の石器と土器との関係が究明されず、今後の課題といえよう。

なお編年に関しては、発掘例に乏しく、地方との対比により考究しなければならない状態であるが、これについてはなお検討の上後日発表したいと思う。ただ同じナイフ形石器についてみても田方郡函南町の上原や、三島市北原などにみる如く、尖頭器を殆んど含まず、多量のナイフ形石器を出す遺跡、芝川町小塚の如く、やや古式の尖頭器を伴出する遺跡があり、またナイフ形石器や尖頭器をごく少量に、細石器を多量に出土する休場遺跡など、編年の一つの目安になりそうである。

最後に旧石器の石材について若干補説しておこう、すでに述べた如く、ナイフ形石器などの刃器において、駿豆地方では黒耀石、遠州地方では硅質頁岩が多く用いられているが、これはその他の石器についてもほぼ同様である。これは前者が新生代の火山地帯で火成岩を基盤とし、後者は古生代の堆積岩を基盤とする地域である点、当然の現象であろう。しかしその間にはやはり両者の交流も僅かながら見られるようである。なお箱根、愛鷹両山地では安山岩、富士山周辺では玄武岩が一部で用いられているのも、それぞれの山地で得やすい石材のためである。また同じ黒耀石でも、静岡県東部及び箱根山地に六ヶ所の産地が知られており、遺跡との関係が今後検討されるべきであろう。箱根・伊豆方面で使用されている黒耀石は、同地域で産出する軽石粒を含むやや粗悪なものが多く、愛鷹・富士両山地では透明度の高い良質のものが多い。愛鷹山地にその産地があるのか、あるいは信州方面からの搬入であるか、今後充分検討を要するものである。

（小野真一）

（注）

1．杉原荘介・小野真一「静岡県休場遺跡の細石器文化」考古学集刊第三巻第二号。昭和四十年。

2．小野真一「沼津市休場遺跡とその周辺」沼津女子高校第四回考古学講座講演要旨。昭和四十年。

3．市原寿文「静岡県の無土器文化」（静岡県の古代文化）昭和三十八年。

4．芹沢長介「新潟県中村遺跡における有舌尖頭器の研究」日本文化研究所報告第二集。昭和四十一年。

第二節　旧石器についての考察

石器の組成についてみると、ナイフ形石器と尖頭器を主体とし、数量的には前者の方がやや多い。他に少数ながら掻器・刃器が伴っている。ナイフ形石器には茂呂型に類似するものと、剥片の先端部と基部とにわずかに細部加工を施したものとが混在し、茂呂型類似のナイフ形石器は比較的小形化している。尖頭器は両面加工のものと、片面加工のものとがあり、両面加工のものは加工状態も粗く、形状も左右非対称的である。片面加工のものは剥片を素材とし、その周縁部に細部加工を施して製作されている。石核はほとんどが扁平で、しかも打面調整がされてなく、舟底状の石核が含まれている。掻器も小形で拇指状のものである。以上の石器及び素材の出土層位をみても二時期の文化に分けられる可能性はなく、同一文化の所産と思われ、ナイフ形石器と尖頭器が共存することや、掻器やナイフ形石器にみられる小形化の傾向、舟底状の石核を伴出する点などを考えると、本遺跡はナイフ形石器を主体とする文化の終末期と思われる。しかし、当地方において先土器時代に関する調査例はまことに少なく、ナイフ形石器と尖頭器とが伴出する遺跡の調査例もない。従って、いわゆる尖頭器を主体とする文化の様相も何一つとして知られておらず、時代的位置づけなどについては今後新しい資料の増加を待って検討される問題であろう。（秋本真澄）